

「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを



「岩手大学三陸復興推進機構」が発足

岩手大学三陸復興推進機構組織図

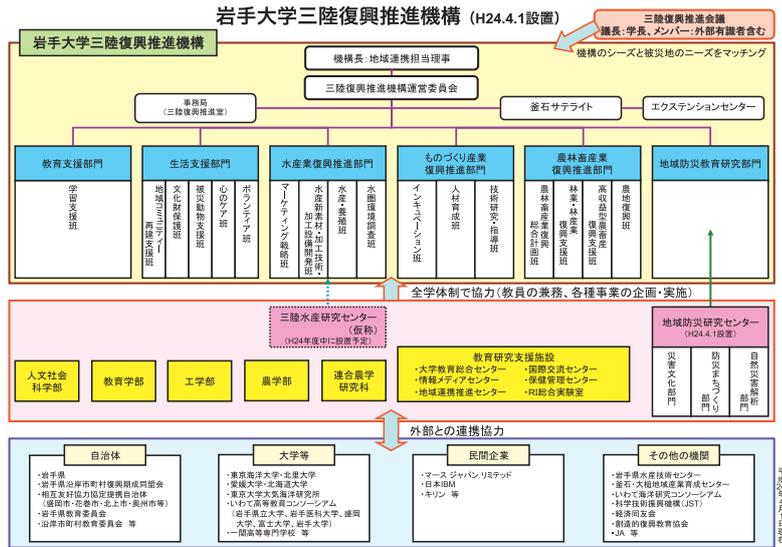
平成24年度がスタートした4月1日、岩手大学の新たな三陸復興推進の要となる「岩手大学三陸復興推進機構」(三陸復興推進機構)が発足しました。

三陸復興推進機構は、平成23年10月に設置した岩手大学三陸復興推進本部(旧推進本部)を発展的に改組し、新たに学則に基づく全学組織として位置付けたものです。

旧推進本部の6部門体制(教育支援、生活支援、水産業復興推進、ものづくり産業復興推進、農林畜産業復興推進、地域防災教育研究)を踏襲しつつ、各部門に特任教員や特任研究員等を新たに配置し、復興支援活動に携わる教職員数を拡充しました。また、久慈市、宮古市及び大船渡市にエクステンションセンターを設置し、既存の釜石サテライトとともに三陸沿岸地域での活動体制を増強します。

このように、組織・人員の両面での体制強化によって、今後息の長い支援活動を展開し、一層の復興推進を図っていきます。

久慈エクステンションセンターは平成24年4月3日開所(詳細は下記記事参照)。宮古市及び大船渡市には、今後設置予定。



岩手大学三陸復興推進機構久慈エクステンションセンターを開所

平成24年4月1日に発足した岩手大学三陸復興推進機構は、被災地のニーズを広く汲み上げるため、久慈市の全面的協力の下、久慈市役所総合政策部産業開発課内に「岩手大学三陸復興推進機構久慈エクステンションセンター」を設置しました。

4月3日に久慈市役所内にて開催した開所式では、藤井克己岩手大学長と山内隆文久慈市長との間で、「久慈エクステンションセンター設置に関する覚書」が締結されました。

山内市長からは、久慈エクステンションセンターが震災復興の核となるよう期待する旨の挨拶がありました。

久慈エクステンションセンターでは、産学官連携コーディネーター

1名が常駐し、地域のニーズ収集と大学のシーズ提供等を行いながら、復興支援活動を推進します。

【久慈エクステンションセンター連絡先】
〒028-8030 岩手県久慈市川崎町1番1号
久慈市役所総合政策部産業開発課内
TEL:090-2953-2519
E-mail:kujijext@iwate-u.ac.jp



覚書を取り交わす山内隆文久慈市長(右)と藤井克己岩手大学長



久慈エクステンションセンターの看板を掲げる山内市長(左)と藤井大学長

マース ジャパン リミテッド社等からペット専用移動診療車「ワンにゃん号」寄贈

ペットフードの輸入・販売等を行っているマース ジャパン リミテッド社及びニュートロ ジャパン社から岩手大学に対して、災害時にも診察ができるペット専用移動診療車「ワンにゃん号」が寄贈され、平成24年3月22日に寄贈式典及び車両見学会が行われました。

これは、震災発生直後から被災地での動物診察活動を行った本学の取り組みについて、マース ジャパン社に賛同していただき、同社から移動診療車の寄付の申し出を受け実現したものです。

寄贈式典では、マース ジャパン社の森澤篤社長とニュートロ ジャパン社の保坂信仁社長から藤井克己岩手大学長に対して、ワンにゃん号のレプリカキーが贈呈されました。続いて行われた見学会では、動物のイラストが施された外観と、レントゲン装置、エコー(超音波診断)装

置、血液分析装置、麻酔装置などの最新医療機器が装備された車内が公開されました。車内では、動物診療のデモンストレーションが行われ、多くの人々の関心を集めました。

今後、本学農学部附属動物病院では、被災地の拠点動物病院等と連携しながら、ワンにゃん号を活用して動物相談会等を実施する予定です。



寄贈されたワンにゃん号

レプリカキーの贈呈を行う(右から)ニュートロ ジャパン社 保坂信仁社長、マース ジャパン社 森澤篤社長、藤井克己岩手大学長



